

平成23年度

# 事務事業評価サポーター制度の実施状況について

京都市では、事業の実施結果を点検する「事務事業評価制度」を実施しています。

- ・事業効果の点検
- ・行財政資源の有効活用
- ・市民への説明責任

などを目的として、評価を行っています。



しかし、制度を運用するうえでまだまだ解決すべき様々な課題があります。

事業を評価するのに適切な指標が見出せない…。

事業の成果を客観的な数値で把握できない…。

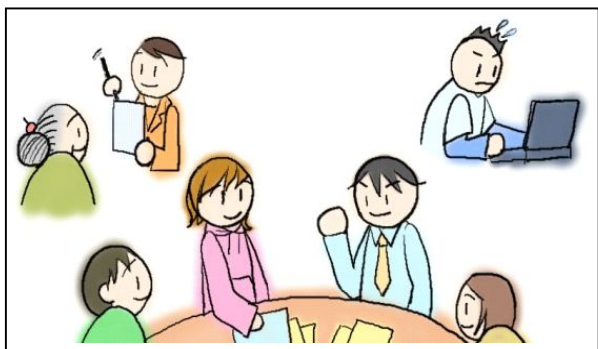
市民に分かりやすい評価になっていない…。



そこで、大学ゼミ等の学生と市役所内から公募した職員とで合同チームを結成し…



事務事業評価制度や、対象となっている分野の事務事業について学んだうえで…



自由な発想、様々な手法で対象分野の事務事業評価をサポートいただき、より良い評価票作りや事務事業の改善に貢献していただきます。

## 平成23年度の対象分野

- ◇ 環境分野
- ◇ 人権・青少年分野
- ◇ 市民生活分野
- ◇ 文化・スポーツ分野

(京都ノートルダム女子大学、龍谷大学学生と協働)

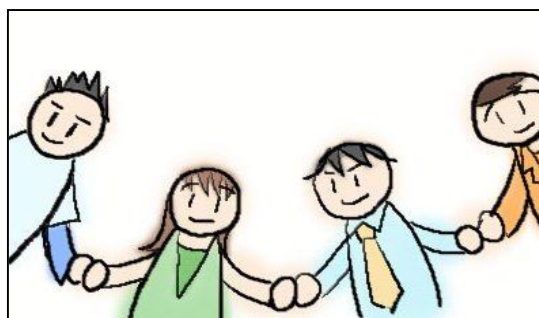
平成24年7月

本市では、平成15年度から本格実施している事務事業評価制度について、庁内外への更なる浸透など主として運用面での改善を図るため、平成17年度から大学ゼミ等の学生と本市職員が協働し、事務事業評価制度の改善に対する提案や各職場で行われる事務事業評価の取組を支援する事務事業評価サポーター制度（以下「サポーター制度」という。）を実施しています。

この「平成23年度事務事業評価サポーター制度の実施状況について」は、平成23年度のサポーター活動状況について取りまとめたものです。

## 目次

- 1 事務事業評価サポーター制度とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 平成23年度サポーターチームの活動状況・・・・・・・・・・・・ 4
  - (1) サポーターチームの編成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
  - (2) 活動の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 3 評価委員会への活動成果の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 4 サポーター活動を終えて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

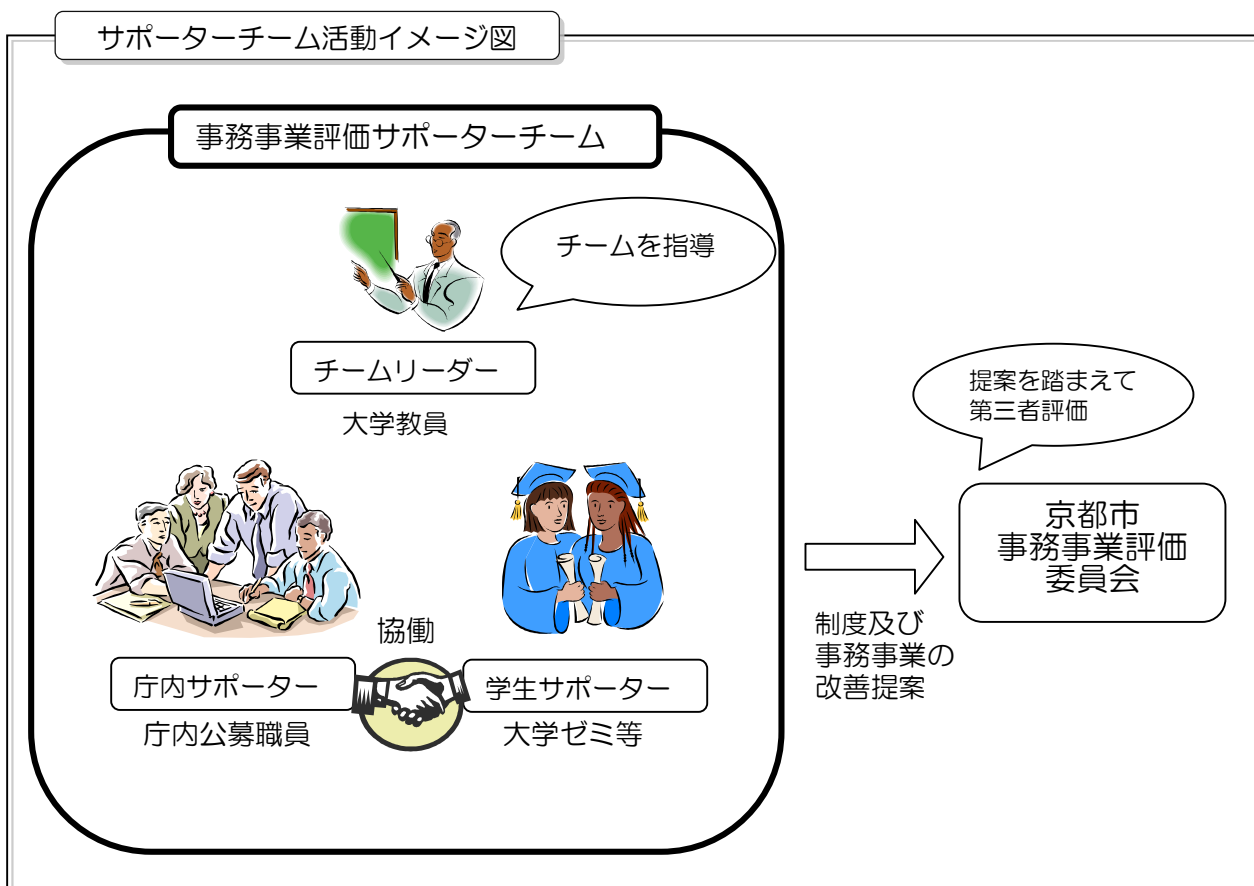


# 1 事務事業評価サポーター制度とは

## ◎ サポーター制度が目指すもの

本市では、平成15年度から原則すべての事務事業（約1,400事業）を対象に事務事業評価制度（以下「評価制度」という。）を本格導入し、仕組みとしては全国的にも先進性の高さを評価いただいておりますが、事業の分野によっては事業の有効性や効率性を図るための指標を見出せない、事業成果を数値で把握することが困難であるなど、評価制度を十分に活用できていないものもあります。また、事務事業に関する客観的なデータや数値目標等を記載した事務事業評価票（以下「評価票」という。）はすべて公表していますが、記載内容が難解で市民に対して分かりにくい部分があるなど、評価制度の運用面での改善が今後の課題となっています。

このため、大学ゼミ等の学生と本市職員が協働し、評価制度の改善に対する提案や各職場で行われる事務事業評価の取組を支援するサポーター制度を平成17年度から実施し、学識経験者など外部の委員で構成する京都市の評価制度の第三者評価機関である京都市事務事業評価委員会（以下「評価委員会」という。）の補助機関として活動しています。



参 考 ①

◎評価制度とは

近年、社会情勢の変化、市民の価値観の多様化等により市民のニーズが拡大する一方で、地方自治体は厳しい財政運営を強いられています。

限られた行政資源を有効に活用し、高品質で満足度の高いサービスを安定的に提供していくために、行政の取組の成果を把握、評価し、次に生かす行政評価の手法が登場し、成果指向の行政運営のツールとして近年多くの自治体で取り入れられています。

京都市の行政評価は、政策・施策を対象にした「政策評価制度」と、施策を推進するための方策である事務事業を対象にした「事務事業評価制度」等により構成されています。このうち事務事業評価制度は、個々の事務事業の有効性、効率性などを、事務事業を行う所属が自己評価し、より効果的で効率的な事務事業への再構築を目指すものです。



<評価制度の実施結果>

事務事業評価 実施年度	事務事業評価 対象事業数 (注1)	今後の方向性								終了 (注2)	見直しによる 次年度予算 節減額
		充実 事業数	継続 事業数	見直し 事業数	縮小等による見直し			効率化等による見直し			
					廃止	休止	縮小等				
15年度	1,308	150	728	430	127	37	7	83	303	—	約102億円
16年度	1,285	156	777	352	71	10	4	57	281	—	約 56億円
17年度	1,296	138	825	333	55	23	1	31	278	—	約 43億円
18年度	1,301	141	862	298	64	25	0	39	234	—	約 43億円
19年度	1,348	148	891	270	45	9	0	36	225	39	約 32億円
20年度	1,370	98	859	358	62	5	1	56	296	55	約 56億円
21年度	1,384	127	901	302	48	11	1	36	254	54	約 40億円
22年度	1,345	159	925	207	51	12	1	38	156	54	約 24億円
23年度	1,345	150	949	177	25	11	0	14	152	69	約 24億円
合計											約420億円

(注1) 前年度をもって終了又は廃止した事務事業を除く。

(注2) 平成19年度から「終了」の区分を新たに追加

(参照) 評価制度ホームページ

<http://www.city.kyoto.jp/somu/gyokaku/hyouka/index.html>

## 参 考 ②

### ◎評価委員会とは

事務事業評価は事務事業担当課の自己評価により実施されます。この評価の客観性、透明性を確保するため、京都市では評価委員会を設置し、第三者の立場から評価を行っていただくほか、事務事業評価の手法等についても助言をいただいています。

事務事業担当課は評価委員会による第三者評価を踏まえ、最終的な評価を行います。

【京都市事務事業評価委員会】（平成24年3月31日現在）

北村 亘 委 員 長（大阪大学大学院法学研究科准教授）

中井 歩 副委員長（京都産業大学法学部准教授）

清水 智子 委 員（有限会社キャップス代表取締役）

中川 美雪 委 員（あずさ監査法人 公認会計士）

越智 温子 委 員（NPO法人遊悠舎京すすめ理事）

## 2 平成23年度サポーターチームの活動状況

### (1) サポーターチームの編成

平成23年度は、京都ノートルダム女子大学生生活福祉文化学部 米田泰子教授、龍谷大学社会学部 築地達郎准教授をチームリーダーとする2つのサポーターチームが「環境分野」、「人権・青少年分野」、「市民生活分野」及び「文化・スポーツ分野」を対象※として、平成23年7月から活動を開始しました。

※ サポーターの活動範囲は、「はばたけ未来へ！ 京(みやこ)プラン(京都市基本計画)」における27政策を分割し、5年で一巡するように設定しています。

平成23年度事務事業評価サポーターチームメンバー

サポーターチーム(A)	
チームリーダー	京都ノートルダム女子大学生生活福祉文化学部 米田 泰子(よねだ やすこ) 教授
学生サポーター	京都ノートルダム女子大学学生 10名
庁内サポーター	3名
サポーターチーム(B)	
チームリーダー	龍谷大学社会学部 築地 達郎(つきじ たつお) 准教授
学生サポーター	龍谷大学学生 11名
庁内サポーター	庁内サポーター 4名

## (2) 活動の概要

### ① サポーターチームA（京都ノートルダム女子大学）

#### ◎ 活動の経過

##### 7月 委嘱式、第1回会議

事務事業評価サポーター制度及び事務事業評価制度について説明を受けるとともに、各サポーターの自己紹介を行い、今後の活動対象として取り組んでいきたい事業について話し合いました。

##### 9月 第2回会議

##### 10月 第3回会議

##### 11月 第4回会議

グループ会議の対象となる個々の事務事業の内容について、所管課の職員から説明を受けるとともに、目標達成度評価の指標や評価票の記載内容の見直しなどについてグループで点検し、発表を行いました。

##### 11月～12月 個別調査、報告資料の作成

評価委員会で報告する事業を選定し、事業ごとに担当者を決めました。各担当者は、これまでの点検結果を検証するとともに、個別に情報収集などを行い、評価票の各指標を含む記載内容及び事業の実施内容についての改善案を検討して、報告内容をまとめました。

##### 12月 第5回会議

各担当者がまとめた報告案に対する改善意見を出し合いました。  
その後、各担当者は、事務事業評価委員会前日まで、報告資料の改善に取り組みました。

##### 12月 京都市事務事業評価委員会

事務事業評価票の点検結果や事務事業の改善案などについて、評価委員会に報告しました。

## ◎ 活動内容

### 1 評価制度について学ぶ

サポーター活動のスタートに当たって、本市の評価制度について説明を受け、理解を深めました。

### 2 活動対象分野の事務事業について学ぶ

活動対象分野所管課の職員から、活動対象分野の概要や個々の事務事業の内容の説明を受け、その理解を深めました。

### 3 評価票の点検と改善案の検討

グループ会議の対象となる個々の事務事業評価票について、以下の二つの視点から点検を行いました。

#### 評価票を点検する二つの視点

##### ① 分かりやすいか？

- 市民にとって分かりやすい表現か
  - ・「事業概要」等の説明は分かりやすいか
  - ・評価項目の表現は分かりやすいか

##### ② 「目標達成度評価」の指標が適切か？

- 指標がその事務事業の成果を表すものとなっているか
- 市民にとって分かりやすい目標値か
- 適切な目標値が設定されているか

点検の対象となった個々の事務事業評価票について、各サポーターが目標達成度評価指標の改善案などを検討しました。

### 4 事業内容についての提案

他都市の実施状況等の調査を行い、事業の目的達成に向けた事業内容の提案や改善案について検討しました。

### 5 点検結果のまとめと報告資料の作成

目標達成度評価指標の改善案や事業の目的達成に向けた事業内容の提案など、点検の対象となったそれぞれの事業についての意見や提案を取りまとめ、評価委員会への報告資料を作成しました。



【写真：サポーターチーム会議の様子】



## ① サポーターチームB（龍谷大学）

### ◎ 活動の経過

#### 7月 委嘱式、第1回会議

事務事業評価サポーター制度及び事務事業評価制度について説明を受けるとともに、各サポーターの自己紹介を行い、今後の活動対象として取り組んでいきたい事業について話し合いました。

#### 9月 第2回会議 10月 第3回会議 11月 第4回会議

グループ会議の対象となる個々の事務事業の内容について、所管課の職員から説明を受けるとともに、目標達成度評価の指標や評価票の記載内容の見直しなどについてグループで点検し、発表を行いました。

#### 11月～12月 個別調査、報告資料の作成

評価委員会で報告する事業を選定し、事業ごとに担当者を決めました。各担当者は、これまでの点検結果を検証するとともに、個別に情報収集などを行い、評価票の各指標を含む記載内容及び事業の実施内容についての改善案を検討して、報告内容をまとめました。

各担当者は、事務事業評価委員会前日まで、報告資料の改善に取り組みました。

#### 12月 京都市事務事業評価委員会

事務事業評価票の点検結果や事務事業の改善案などについて、評価委員会に報告しました。

### ◎ 活動内容

#### 1 評価制度について学ぶ

サポーター活動のスタートに当たって、本市の評価制度について説明を受け、理解を深めました。

## 2 活動対象分野の事務事業について学ぶ

活動対象分野所管課の職員から、活動対象分野の概要や個々の事務事業の内容の説明を受け、その理解を深めました。

## 3 評価票の点検と改善案の検討

グループ会議の対象となる個々の事務事業評価票について、以下の二つの視点から点検を行いました。

### 評価票を点検する二つの視点

#### ① 分かりやすいか？

- 市民にとって分かりやすい表現か
  - ・「事業概要」等の説明は分かりやすいか
  - ・評価項目の表現は分かりやすいか

#### ② 「目標達成度評価」の指標が適切か？

- 指標がその事務事業の成果を表すものとなっているか
- 市民にとって分かりやすい目標値か
- 適切な目標値が設定されているか

点検の対象となった個々の事務事業評価票について、各サポーターが目標達成度評価指標の改善案などを検討しました。

## 4 事業内容についての提案

ホームページなどから事業の実施状況を調査し、事業の目的達成に向けた事業内容の提案や改善案について検討しました。

## 5 点検結果のまとめと報告資料の作成

目標達成度評価指標の改善案や事業の目的達成に向けた事業内容の提案など、点検の対象となったそれぞれの事業についての意見や提案を取りまとめ、評価委員会への報告資料を作成しました。



【写真：サポーターチーム会議の様子】

### 3 評価委員会への活動成果の報告

事務事業の所管課からのヒアリングやサポーターチーム会議等によるサポーター活動での成果について、各サポーターチームから評価委員会に対して報告を行いました。



(写真：評価委員会への報告の様子)

#### ◎ サポーターからの主な意見

- ・「こどもエコライフチャレンジ推進事業」について、目標達成度評価の指標が「こどもエコライフチャレンジ実施率」となっているが、「こどもエコライフチャレンジ（子ども版環境家計簿）」の実施によって、子どもが家庭においてどのぐらい環境に配慮した生活を送っているか、また、環境への意識高まっている生徒が増加しているかを把握するため、「子ども版環境家計簿の生徒取組人数」を指標としてはどうか。
- ・「鴨川の自然の恵みを育む協働事業」について、事務事業評票に記載のあるHPアドレスは、所管局全体のHPであり、当該事業の情報に飛ばない。天然アユがどこまで遡上しているのか、地図情報等を掲載するなどして、事業概要を分かりやすくすべき。
- ・「認知症の人も安心して暮らせる町づくり」について、事業概要欄の「ハードとソフト」という表現が分かりにくい。また、現在、「登録店舗数」を指標に設定しているが、店舗数が増えただけでは高齢者が安心して暮らせるまちづくりにどれだけ効果があるのか見えない。店舗利用者のアンケート等を通じて、満足度を指標に設定することはできないか。
- ・「京都市婚活支援事業」について、事業概要欄に、対象者の年齢、イベントの回数、参加人数・実施日時など、対象者の詳細を明記すべき。「参加者の満足度」が指標に設定されているが、これに加えて、「参加者のうち、成婚した人」を追加してはどうか。
- ・「京都市ごみ減量推進会議運営」について、「地域ごみ減量推進会議の設立団体数」と「京都市ごみ減量推進会議」の会員数を指標に設定しているが、市民にごみ減量の啓発することも事業目的なので、実施されているイベントの参加者数を新たな指標に設定してはどうか。
- ・「北区北部山間いきいき大作戦「エコツーリズムキャンペーン」」について、来訪者の増加を目的とする事業であるため、現在、指標に設定している「フォトコンテスト等イベント開催回数」よりも、「イベントの参加者数」としてはどうか。また、イベント自体の質を上げていくため、参加者の満足度を指標に設定し、継続的に把握してはどうか。
- ・「夜間校庭開放事業」について、現在、指標として「利用件数」及び「利用者数」が設定されているが、実績値に大きな変化がない。利用者が固定されているとも考えられるため、「新規利用者数」としてはどうか。

評価委員会による第三者評価では、各サポーターチームからの報告を参考として、以下の意見が出されました。

## ◎ サポーター意見を反映した第三者評価意見

- ・「こどもエコライフチャレンジ推進事業」について、現行の指標「実施率」とあわせて、実施内容の中身を評価する別の指標が必要ではないか。
- ・「鴨川の自然の恵みを育む協働事業」について、事務事業評票に記載のあるHPアドレスが事業のHPに直接リンクしていない。また、アユがどこまで遡上してきているかを地図や写真で示すなど、分かりやすいHPとなるよう工夫してほしい。
- ・「認知症の人も安心して暮らせる町づくり」について、事業概要欄の「ハードとソフト」という表現が分かりにくいので、例えば「対応と設備の両面」などとすればどうか。また、目標達成度評価の指標について、事後的な事業の効果を測定できるよう、満足度調査を実施し、それを指標に設定できなかに検討してほしい。
- ・「京都市婚活支援事業」について、官と民の役割が気になる事業であり、市として必要な事業であるならば、事業の必要性が伝わるよう評価票の書き方を工夫すべきである。
- ・「京都市ごみ減量推進会議運営」について、活動の成果として、ごみが減っているかどうか分かる成果指標を検討すべき。
- ・「北区北部山間いきいき大作戦「エコツーリズムキャンペーン」」について、アンケートにより参加者の満足度を調査し、それを目標達成度評価の指標に設定してはどうか。
- ・「夜間校庭開放事業」について、「利用件数」、「利用者数」と似たような指標が設定されている。実績値の変動が少なく、利用者が固定されているように見受けられるので、指標を「新規利用者数」とすればどうか。

## 4 サポーター活動を終えて

学生サポーターから、今回のサポーター活動について、以下の感想をいただきました。サポーターの皆様、長期間活動いただき、ありがとうございました。

### 「大学生の意見を京都市の事業へ」

京都ノートルダム女子大学 学生サポーターのみなさん

私たちは京都市事業サポーターとして、7月から12月まで京都市の事業について学び、学生の視点から事業の改善点を見つけ、意見を述べあい発表を行いました。学んでいく中、「より良い京都市にしていくためには今何が必要なのか？」と学生たちで思案することで事業に対して興味・関心が高くなりました。

私たちは日々京都市の大学で勉学に励み、京都市で過ごしています。その中で知らず知らずのうちに京都市の事業に関わっていたことを事業サポーターで知ることが出来ました。事業内容がさらに良くなることで、京都市民の生活がより快適で住みやすいものになると感じています。これからも事業に対して様々な視点で考えていくことが大切であると思いました。

最後に、学生の意見を真剣に聞いてくださった京都市事業の方々、事業サポーターを支えてくださった皆様方に感謝し、今後の事業が更に発展していくことを望んでいます。

### 「一生誇れる時間と経験」

龍谷大学 学生サポーターのみなさん

今回のサポーター活動を担当した当初、普段は遠い存在である地方行政分野に関する取組みに対し、不安や重圧がありました。しかし、会議の場で職員の方のお話を聞き、その事業の分析を進めていく事によって、私たちが教室では学べない現場目線で、行政の重要性やその取り組みが市民の生活に直接影響する事を学べたと実感しています。

また、数値やデータだけで良し悪しを判断するのではなく、「何故こうなったのか」といった原因や背景を踏まえて物事の本質を見抜く力が身についたことは、今後社会人として生活する上で非常に良い経験ができたと思います。

最後に、長期間にわたってこの活動を支えてくださった京都市職員の皆様、本当に有難うございました。京都市の為に仲間と頑張りながら取り組んだ半年間は、私たちにとって一生誇ることのできる時間となりました。